

64年五輪聖火トーチ握れる

20年へ盛り上げ 文京で展示

1964年の東京五輪で使われた聖火トーチを実際に手にし、重さや握り心地を確かめられる展示会が、

文京区本郷1丁目の東洋学園大本郷キャンパス1号館で開かれている。半世紀前の東京五輪を実感し、2020年東京五輪への思いを高めることがねらいだ。

トーチは当時の文部大臣で、東京五輪組織委員事務めた同大第6代学長、故愛知揆一氏のコレクション

ン。現在は大学で所蔵しており、来場者が直接触れられる展示は初という。

ステンレスの筒をアルミ合金のホルダーが支えるトーチは軽く感じるが、ランナーのように掲げると次第に重みが増してくる。手にした同大3年の山田剛さん(20)は「よく見ると筒の先に炎にあぶられた焦げがある。半世紀前の東京でこのトーチが聖火を運んだと思えば、父母に聞いても遠かった前回五輪が身近になる」と話す。

前回東京五輪出場選手所蔵の公式ユニホームも展示している。9月25日まで(土日祝、8月11～19日、9月1～9日閉館)。無料。問い合わせは同大(03・3811・1696)。

(西本ゆか)

